中国語を学ぶにあたって

はじめに

どの第二外国語を選んだらよいのか、困っている人もいることでしょう。世界中のより多くの人とコミュニケーションを取りたいなら、中国語はおすすめです。中国語を母語とする人の数は全言語の中で最も多く、その数はざっと13億人以上。さらには中国大陸以外でも、台湾、香港、マレーシア、シンガポールなど、多くの地域で使われています。アジアの国のみならず、旅行に行った際、意外な地域で中国語を話せる人に出会うこともしばしばあります。

また、日本国内でも中国語を使う機会は増えつつあります。観光客や留学生、さまざまな理由で来日した人……日本には多くの中国語を使う人々が生活しています。さらに、日中の貿易は近年ますます盛んになっており、皆さんが社会に出た後、中国語を話す人々と一緒に仕事をする可能性もあるでしょう。中国語を話すことができれば、こうした世界中の十数億人と交流できるのです。それだけではなく、みなさんご存知のように、日本語と中国語は歴史的に深いつながりがあります。漢字は言うまでもなく中国から伝来したものですし、四字熟語、ことわざ……日本語の中にはたくさんの中国からやってきた表現が存在しますね。意外かもしれませんが、実は中国語の中にも、日本語から受容された表現があります。たとえば、「初恋」「手続」「場合」など。最近では「超」「宅（オタク）」なども若い人の間では比較的よく使われます。中国語を学ぶことで、日本語についても新しい発見があることでしょう。中国語は皆さんにとって、非常に身近な存在であると同時に、役に立つ言語なのです。

台湾・九份

中国語あれこれ

中国語はどんな言葉でしょうか。アルファベットで表記される西洋言語とも漢字と仮名文字で表記される日本語とも異なり、中国語は基本的に漢字ばかりで書き表されます。これは漢字を知っている日本人にとっては学習する上で大きな利点となることでしょう。「来」「大学」などはそのまま「来る」「大学」とわかりますし、たとえば「我是中京大学的学生。（私は中京大学の学生です）」のような文でも、だいたい何を書いているか理解できますね。しかし、もちろん全く同じというわけではありません。中国語を学ぶ際、以下のような点に注意すると中国語の勉強がもっと楽しく、理解しやすくなるかと思います。

1 発音はローマ字で表記する

中国語は漢字ばかりで表記します。ということは読み方を知らない漢字があった場合、日本語のように読み仮名をつける、ということが出来ないのです。漢字で漢字の読みを示すというのはとても難しい。昔の人はいろいろな方法を工夫していました。ところが現在では中国語の発音はローマ字で表記します。だから中国語の授業なのに最初のうちはちっとも漢字が出てこない、ローマ字ばかり出てくる、ということに驚く学生もいるようです。しかし考えてみれば当たり前です。漢字ばかりならばどうやって発音を練習できるでしょうか。

むしろローマ字によって発音を表記することは中国人自身にとっても、我々が中国語を勉強する際にもとても便利なことなのです。このローマ字表記を読み、発音することができれば、中国語の漢字全てを発音できます。ローマ字と言えば、苦手な英語を思い出されるかもしれませんが、まったく違うものです。中国語のローマ字表記は規則的に作られており、とても覚えやすいのです。中国語の辞書も、ローマ字のabc順に単語が配列されています。またコンピュータに中国語を入力する場合、ローマ字によって発音を入力し、それから漢字変換をします（日本語の入力も同じですね）。

2 同じ文字でも意味が違う

「茶」や「家」などの文字、これは日本語も中国語も意味は同じです（発音は違いますが）。しかし同じ文字でもその表す意味が違う場合がたくさんあります。「汽車」と書けば中国語では「自動車」の意味です。「汽」はガソリンなどの燃料のことですね。では日本語の「汽車」にあたる単

上海バンド界隈

語はというと、中国語では「火車」と言います。他にも「手紙」とは何でしょう？　これは日本語の「ちり紙」「トイレットペーパー」に当たります。有名な笑い話にこういうのがあります。日本の工場に視察に来た中国人が「油断一瞬､怪我一生」と書かれているのを読んで､「日本人はなんて生真面目なんだろう！　『油が一瞬でも切れたら､私のことを一生責めてください』だなんて！」と驚いたそうです。「怪我」は「私を責める」という意味になります。

同じ漢字が使われていると言っても、やはりきちんと単語として意味を確認していかなければなりません。それは中国語であろうと他の外国語であろうと変わらないのです。むしろ、同じ漢字が日本と中国でなぜこのように違う意味で用いられるようになったのか調べてみるのも、大変楽しい勉強だと言えるでしょう。

3 同じ文字でも書き方が違う

現在の中国語は略字体を採用しています。これを「簡体字」と言います。たとえば中国語で「机」と書いてあったら「つくえ」ではありません。「机」は「機」の略字体です。だから「飞机（空飛ぶつくえ）」と書いてあったら、それはもちろん「飛行機」のことです。他にも「几」は「幾」、「儿」は「児」、「从」は「従」、など様々な略字があります。もちろんそれも単語としてきちんと覚えなければなりませんが、いずれの略字もへんやつくりに一定の略し方が決まっていますので、基本的な原則を覚えておけばあとは規則的に書くことができます。

4 日本語とは語順が違う

例えば中国語では目的語は動詞の後ろに来るのが原則です。「我打電脳」（私はコンピュータを打つ）のように、「打（打つ）」の後に「電脳（コンピュータ）」が来ていますね。ところで日本語の動詞には活用があります。「書かない、書きます、書く、書くとき、書けば……」のように。英語の動詞にも現在形・過去形・過去分詞がありますね。一方中国語は漢字ばかりで出来ています。漢字という文字自体は活用や変化をしません。例えば「来る」という動詞は、現在の文脈でも過去の文脈でも「来（ライ）」で形は変わりません。そのため中国語では語順が意味を決めるのです。皆さんの想像では、ローマ字の綴りを覚えたり漢字の略字を覚えたり、ということがいかにも大変そうに思われるかも知れませんが、これはある程度慣れてしまえば実はそう難しくないのです。中国語の勉強が進むにつれて一番難しいのは、本当はこの「語順」ということかもしれません。

おわりに

そもそも語学の授業というのは、会話が出来るようになるためだけにあるのではありません。「はじめに」で述べたように､構造や表現などの日本語と違う点､あるいは同じ点から自分の母語を見直すきっかけとなることもあります。また教科書などには出てこないような、中国の一般生活や風俗習慣、若者文化といったことについて知ることができるのも、語学の授業の楽しみの一つです。

大切なのは学んだ中国語を使って「楽しむ」ことです。すでに述べたように、我々日本人には漢字を見れば何となく意味が分かる、というメリットがあります。重要な基本単語がある程度頭に入っていれば、全ての単語の意味と発音が分からなくても、大体の意味が分かる、ということが大切なのです。中国の新聞の見出しくらいはすぐに読めるようになります。また中国に行ったときに掲示や看板を見ながら自分の足で町を歩き回る、ということだってすぐにできるようになるのです。それに衛星放送の国際ニュースひとつ見るにしても読みの深さが違ってきます。是非中国語を学ぶことを通じて社会や歴史や文化や習慣など、いろいろなことに興味を持ってみて下さい。

バヤンゴル・モンゴル自治州バインブルク草原